

(19)日本国特許庁(JP)

(12)特許公報(B2)

(11)特許番号

特許第7174643号

(P7174643)

(45)発行日 令和4年11月17日(2022.11.17)

(24)登録日 令和4年11月9日(2022.11.9)

(51)国際特許分類

F I

A 6 1 F 13/56 (2006.01)

A 6 1 F 13/56 2 1 1

A 6 1 F 13/493 (2006.01)

A 6 1 F 13/56 2 1 3

A 6 1 F 13/493

請求項の数 10 (全15頁)

(21)出願番号	特願2019-26913(P2019-26913)	(73)特許権者	000115108
(22)出願日	平成31年2月18日(2019.2.18)		ユニ・チャーム株式会社
(65)公開番号	特開2020-130540(P2020-130540 A)	(74)代理人	愛媛県四国中央市金生町下分182番地 110003247弁理士法人小澤知的財産事 務所
(43)公開日	令和2年8月31日(2020.8.31)	(72)発明者	宮前 直夢
審査請求日	令和2年9月25日(2020.9.25)		香川県観音寺市豊浜町和田浜1531- 7 ユニ・チャーム株式会社テクニカル センター内
		(72)発明者	宮 崎 泰一
			香川県観音寺市豊浜町和田浜1531- 7 ユニ・チャーム株式会社テクニカル センター内
		(72)発明者	中島 瞳
			香川県観音寺市豊浜町和田浜1531- 最終頁に続く

(54)【発明の名称】 吸収性物品

(57)【特許請求の範囲】

【請求項1】

互いに直交する前後方向及び幅方向と、
 前記前後方向の中央を含む股下域、前記股下域よりも前側に位置する前胴回り域及び前
 記股下域よりも後側に位置する後胴回り域と、
 少なくとも前記股下域に配置された吸収コアと、
 前記後胴回り域において前記幅方向の外側に延出した止着部材と、
 前記前胴回り域において前記止着部材が止着するターゲット領域と、を有し、
 前記止着部材は、前記ターゲット領域に止着する第1係合部を有する第1タブと、前記
 第1タブよりも前側に位置し、前記ターゲット領域に止着する第2係合部を有する第2タ
 ブと、を有する吸収性物品であって、
 前記ターゲット領域には、第1目印部と、前記第1目印部よりも後側に位置する第2目
 印部と、が設けられており、
 前記第1目印部は、前記吸収性物品の展開状態における前記第1タブの前記幅方向の外
 端縁に位置する第1外端縁に相似する第1外端図柄と、前記第1タブの前記第1外端縁に
 交差し且つ前記幅方向に延びる第1交差縁に相似する第1交差図柄と、を有し、
 前記第2目印部は、前記展開状態における前記第2タブの前記幅方向の外端縁に位置す
 る第2外端縁に相似する第2外端図柄と、前記第2タブの前記第2外端縁に交差し且つ前
 記幅方向に延びる第2交差縁に相似する第2交差図柄と、を有し、
 前記第1目印部と前記第2目印部は、前記前後方向に並んで配置されており、

10

20

前記第 1 目印部は、前記第 1 係合部に相似する第 1 係合図柄を有し、
前記第 2 目印部は、前記第 2 係合部に相似する第 2 係合図柄を有し、
前記第 1 目印部と前記第 2 目印部は、一部重なっており、
前記第 1 目印部と前記第 2 目印部のうち、装着順序が先のタブを示す目印部が欠けてい
ている、吸収性物品。

【請求項 2】

互いに直交する前後方向及び幅方向と、
前記前後方向の中央を含む股下域、前記股下域よりも前側に位置する前胴回り域及び前
記股下域よりも後側に位置する後胴回り域と、
少なくとも前記股下域に配置された吸収コアと、
前記後胴回り域において前記幅方向の外側に延出した止着部材と、
前記前胴回り域において前記止着部材が止着するターゲット領域と、を有し、
前記止着部材は、前記ターゲット領域に止着する第 1 係合部を有する第 1 タブと、前記
第 1 タブよりも前側に位置し、前記ターゲット領域に止着する第 2 係合部を有する第 2 タ
ブと、を有する吸収性物品であって、
前記ターゲット領域には、第 1 目印部と、前記第 1 目印部よりも後側に位置する第 2 目
印部と、が設けられており、
前記第 1 目印部は、前記吸収性物品の展開状態における前記第 1 タブの前記幅方向の外
端縁に位置する第 1 外端縁に相似する第 1 外端図柄と、前記第 1 タブの前記第 1 外端縁に
交差し且つ前記幅方向に延びる第 1 交差縁に相似する第 1 交差図柄と、を有し、
前記第 2 目印部は、前記展開状態における前記第 2 タブの前記幅方向の外端縁に位置す
る第 2 外端縁に相似する第 2 外端図柄と、前記第 2 タブの前記第 2 外端縁に交差し且つ前
記幅方向に延びる第 2 交差縁に相似する第 2 交差図柄と、を有し、
前記第 1 目印部と前記第 2 目印部は、前記前後方向に並んで配置されており、
前記第 1 目印部は、前記第 1 係合部に相似する第 1 係合図柄を有し、
前記第 2 目印部は、前記第 2 係合部に相似する第 2 係合図柄を有し、
前記第 1 目印部と前記第 2 目印部は、一部重なっており、
前記第 1 係合図柄と前記第 2 係合図柄は、重なっていない、
前記第 1 係合部は、前記第 1 外端縁と離間しており、
前記第 2 係合部は、前記第 2 外端縁と離間している、吸収性物品。

【請求項 3】

互いに直交する前後方向及び幅方向と、
前記前後方向の中央を含む股下域、前記股下域よりも前側に位置する前胴回り域及び前
記股下域よりも後側に位置する後胴回り域と、
少なくとも前記股下域に配置された吸収コアと、
前記後胴回り域において前記幅方向の外側に延出した止着部材と、
前記前胴回り域において前記止着部材が止着するターゲット領域と、を有し、
前記止着部材は、前記ターゲット領域に止着する第 1 係合部を有する第 1 タブと、前記
第 1 タブよりも前側に位置し、前記ターゲット領域に止着する第 2 係合部を有する第 2 タ
ブと、を有する吸収性物品であって、
前記ターゲット領域には、第 1 目印部と、前記第 1 目印部よりも後側に位置する第 2 目
印部と、が設けられており、
前記第 1 目印部は、前記吸収性物品の展開状態における前記第 1 タブの前記幅方向の外
端縁に位置する第 1 外端縁に相似する第 1 外端図柄と、前記第 1 タブの前記第 1 外端縁に
交差し且つ前記幅方向に延びる第 1 交差縁に相似する第 1 交差図柄と、を有し、
前記第 2 目印部は、前記展開状態における前記第 2 タブの前記幅方向の外端縁に位置す
る第 2 外端縁に相似する第 2 外端図柄と、前記第 2 タブの前記第 2 外端縁に交差し且つ前
記幅方向に延びる第 2 交差縁に相似する第 2 交差図柄と、を有し、
前記第 1 目印部と前記第 2 目印部は、前記前後方向に並んで配置されており、
前記第 1 目印部は、前記第 1 係合部に相似する第 1 係合図柄を有し、

前記第 2 目印部は、前記第 2 係合部に相似する第 2 係合図柄を有し、
前記第 1 目印部は、前記第 1 タブの外形よりも大きい部分と、前記第 1 タブの外形より
も小さい部分と、を有し、
前記第 1 目印部は、前記第 1 タブの外縁をまたがる形状であり、
前記第 2 目印部は、前記第 2 タブの外形よりも大きい部分と、前記第 2 タブの外形より
も小さい部分と、を有し、
前記第 2 目印部は、前記第 2 タブの外縁をまたがる形状であり、
前記第 1 係合部は、前記第 1 外端縁と離間しており、
前記第 2 係合部は、前記第 2 外端縁と離間している、吸収性物品。

【請求項 4】

10

前記第 1 交差図柄及び前記第 2 交差図柄は、前記幅方向の内側に向かうにつれて前記前後方向において互いに近づくように延びている、請求項 1 から請求項 3 のいずれか 1 項に記載の吸収性物品。

【請求項 5】

前記第 1 目印部と前記第 2 目印部は、前記前後方向に離間している、請求項 1 から請求項 4 のいずれか 1 項に記載の吸収性物品。

【請求項 6】

前記第 1 目印部及び前記第 2 目印部の少なくとも一方は、前記吸収コアと重なる領域に配置されている、請求項 1 から請求項 5 のいずれか 1 項に記載の吸収性物品。

【請求項 7】

20

前記第 1 目印部及び前記第 2 目印部の少なくとも一方は、前記吸収コアの前端縁を跨がっている、請求項 6 に記載の吸収性物品。

【請求項 8】

前記吸収コアの前端縁は、前記幅方向の内側に向かって後側に延びており、
 前記第 1 交差図柄は、前記幅方向の内側に向かって後側に延びている、請求項 1 から請求項 7 のいずれか 1 項に記載の吸収性物品。

【請求項 9】

前記第 1 目印部は、外側第 1 目印部と、前記外側第 1 目印部よりも前記幅方向の内側に配置された内側第 1 目印部と、を有し、

前記第 2 目印部は、外側第 2 目印部と、前記外側第 2 目印部よりも前記幅方向の内側に配置された内側第 2 目印部と、を有し、

30

前記外側第 1 目印部は、前記内側第 1 目印部に対する色差 E が 3.0 以上の第 1 識別部を有し、

前記外側第 2 目印部は、前記内側第 2 目印部に対する色差 E が 3.0 以上の第 2 識別部を有する、請求項 1 から請求項 8 のいずれか 1 項に記載の吸収性物品。

【請求項 10】

前記第 1 外端図柄の長さは、前記第 1 外端縁よりも長く、
 前記第 1 交差図柄の長さは、前記第 1 交差縁よりも長く、
 前記第 2 外端図柄の長さは、前記第 2 外端縁よりも長く、
 前記第 2 交差図柄の長さは、前記第 2 交差縁よりも長い、請求項 1 から請求項 9 のいずれか 1 項に記載の吸収性物品。

40

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、使い捨ておむつのような吸収性物品に関する。

【背景技術】

【0002】

特許文献 1 には、後胴回り域に配置された止着部材と、前胴回り域において止着部材が止着されるターゲット領域と、止着部材の止着位置を示す目印部と、を有する吸収性物品が開示されている。特許文献 1 の止着部材は、前後方向に離間して配置された第 1 タブ及

50

び第2タブを有する。目印部は、ターゲット領域の中央に向かって股部側に近づくように斜めに延びる第1ガイド線と、ターゲット領域の中央に向かって股部側から離れるように斜めに延びる第2ガイド線と、を有する。

【先行技術文献】

【特許文献】

【0003】

【文献】特開2012-100752号公報

【発明の概要】

【0004】

特許文献1の吸収性物品を装着する際は、着用者の背側に後胴回り域を当て、かつ腹側に前胴回り域を当てた状態で、止着部材をターゲット領域に止着する。このとき、第1ガイド線に沿って第1タブを配置し、第2ガイド線に沿って第2タブを配置することができる。

10

【0005】

しかし、第1タブのどの部分を第1ガイド線に合わせ、第2タブのどの部分を第2ガイド部に合わせるの、装着者によって異なり、適切な位置に止着部材を配置できないことがあった。また、装着者によっては、第1タブを合わせる位置と第2タブを合わせる位置とが混同し、適切な位置に止着部材を配置できないことがあった。

【0006】

よって、第1タブと第2タブを有する吸収性物品において、第1タブと第2タブをそれぞれ適切な位置に装着できる吸収性物品が望まれる。

20

【課題を解決するための手段】

【0007】

一態様に係る吸収性物品は、互いに直交する前後方向及び幅方向と、前記前後方向の中央を含む股下域、前記股下域よりも前側に位置する前胴回り域及び前記股下域よりも後側に位置する後胴回り域と、少なくとも前記股下域に配置された吸収コアと、前記後胴回り域において前記幅方向の外側に延出した止着部材と、前記前胴回り域において前記止着部材が止着するターゲット領域と、を有し、前記止着部材は、前記ターゲット領域に止着する第1係合部を有する第1タブと、前記第1タブよりも前側に位置し、前記ターゲット領域に止着する第2係合部を有する第2タブと、を有する吸収性物品であって、前記ターゲット領域には、第1目印部と、前記第1目印部よりも後側に位置する第2目印部と、が設けられており、前記第1目印部は、前記吸収性物品の展開状態における前記第1タブの前記幅方向の外端縁に位置する第1外端縁に相似する第1外端図柄と、前記第1タブの前記第1外端縁に交差し、かつ前記幅方向に延びる第1交差縁に相似する第1交差図柄と、を有し、前記第2目印部は、前記展開状態における前記第2タブの前記幅方向の外端縁に位置する第2外端縁に相似する第2外端図柄と、前記第2タブの前記第2外端縁に交差し、かつ前記幅方向に延びる第2交差縁に相似する第2交差図柄と、を有し、前記第1目印部と前記第2目印部は、前記前後方向に並んで配置されている。

30

【図面の簡単な説明】

【0008】

40

【図1】実施形態に係る吸収性物品を肌面側から見た平面図である。

【図2】実施形態に係る吸収性物品を非肌面側から見た平面図である。

【図3】図1に示すA-A線に沿った断面図である。

【図4】止着部材の拡大平面図である。

【図5】目印部の拡大平面図である。

【図6】目印部に止着部材を止着した状態を示した図である。

【発明を実施するための形態】

【0009】

(1) 実施形態の概要

本明細書及び添付図面の記載により、少なくとも以下の事項が明らかとなる。

50

一態様に係る吸収性物品は、互いに直交する前後方向及び幅方向と、前記前後方向の中央を含む股下域、前記股下域よりも前側に位置する前胴回り域及び前記股下域よりも後側に位置する後胴回り域と、少なくとも前記股下域に配置された吸収コアと、前記後胴回り域において前記幅方向の外側に延出した止着部材と、前記前胴回り域において前記止着部材が止着するターゲット領域と、を有し、前記止着部材は、前記ターゲット領域に止着する第1係合部を有する第1タブと、前記第1タブよりも前側に位置し、前記ターゲット領域に止着する第2係合部を有する第2タブと、を有する吸収性物品であって、前記ターゲット領域には、第1目印部と、前記第1目印部よりも後側に位置する第2目印部と、が設けられており、前記第1目印部は、前記吸収性物品の展開状態における前記第1タブの前記幅方向の外端縁に位置する第1外端縁に相似する第1外端図柄と、前記第1タブの前記第1外端縁に交差し、かつ前記幅方向に延びる第1交差縁に相似する第1交差図柄と、を有し、前記第2目印部は、前記展開状態における前記第2タブの前記幅方向の外端縁に位置する第2外端縁に相似する第2外端図柄と、前記第2タブの前記第2外端縁に交差し、かつ前記幅方向に延びる第2交差縁に相似する第2交差図柄と、を有し、前記第1目印部と前記第2目印部は、前記前後方向に並んで配置されている。

10

【0010】

第1目印部が第1タブの交差する2辺（第1外端縁及び第1交差縁）に相似する図柄であり、第2目印部が第2タブの交差する2辺（第2外端縁及び第2交差縁）に相似する図柄である。装着者は、1本の線からなる目印部と比較して、第1タブを第1目印部に合わせる部位、及び第2タブを第2目印部に合わせる部位を適切に把握できる。また、第1目印部と第2目印部は、前後方向に並んで配置されているため、前後方向に並んで配置された第1タブと第2タブのそれぞれを止める位置を混同し難い。よって、それぞれのタブを適切な位置に止めることができる。

20

【0011】

好ましい一態様によれば、前記第1交差図柄及び前記第2交差図柄は、前記幅方向の内側に向かうにつれて前記前後方向において互いに近づくように延びてよい。

【0012】

本態様によれば、幅方向の内側に向かって互いに近づくように第1タブと第2タブを止着できる。第1タブの角度及び第2タブの角度もガイドでき、着用者の腹部の幅方向の中心に対して締め付ける力が強くなるように止着部材を止着できる。

30

【0013】

好ましい一態様によれば、前記第1目印部と前記第2目印部は、前記前後方向に離間してよい。

【0014】

本態様によれば、前後方向に並んで配置された第1タブと第2タブのそれぞれを止める位置をより区別し易くなり、それぞれのタブを適切な位置に止めることができる。

【0015】

好ましい一態様によれば、前記第1目印部及び前記第2目印部の少なくとも一方は、前記吸収コアと重なる領域に配置されてよい。

【0016】

本態様によれば、第1タブ及び第2タブの少なくとも一方を止着することにより、吸収コアを押さえることができる。吸収コアの密着性を高め、漏れを抑制できる。

40

【0017】

好ましい一態様によれば、前記第1目印部及び前記第2目印部の少なくとも一方は、前記吸収コアの前端縁を跨がってよい。

【0018】

本態様によれば、第1タブ及び第2タブの少なくとも一方を止着することにより、吸収コアの前端縁を押さえることができる。吸収コアの密着性を高めるとともに、吸収コアの前端縁が身体から浮き上がることによる漏れを抑制できる。

【0019】

50

好ましい一態様によれば、前記吸収コアの前端縁は、前記幅方向の内側に向かって後側に延びており、前記第 1 交差図柄は、前記幅方向の内側に向かって後側に延びてよい。

【0020】

本態様によれば、第 1 目印部の第 1 交差図柄に沿って第 1 タブが止着されることにより、吸収コアの前端縁の形状に沿うように吸収コアを押さえることができる。吸収コアの前端縁が身体から浮き上がることによる漏れを抑制できる。

【0021】

好ましい一態様によれば、前記第 1 目印部は、前記第 1 係合部に相似する第 1 係合図柄を有し、前記第 2 目印部は、前記第 2 係合部に相似する第 2 係合図柄を有してよい。

【0022】

本態様によれば、第 1 係合部の位置を第 1 係合図柄に直接合わせ、第 2 係合部の位置を第 2 係合図柄に直接合わせることができる。よって、それぞれのタブをより適切な位置に止めることができる。

【0023】

好ましい一態様によれば、前記第 1 目印部は、外側第 1 目印部と、前記外側第 1 目印部よりも前記幅方向の内側に配置された内側第 1 目印部と、を有し、前記第 2 目印部は、外側第 2 目印部と、前記外側第 2 目印部よりも前記幅方向の内側に配置された内側第 2 目印部と、を有し、前記外側第 1 目印部は、前記内側第 1 目印部に対する色差 E が 3.0 以上の第 1 識別部を有し、前記外側第 2 目印部は、前記内側第 2 目印部に対する色差 E が 3.0 以上の第 2 識別部を有してよい。

【0024】

装着者は、着用者の体型等に応じて、外側第 1 目印部と内側第 1 目印部を選択するとともに、外側第 2 目印部と内側第 2 目印部を選択できる。このとき、装着者は、第 1 識別部によって外側第 1 目印部と内側第 1 目印部を区別し易く、第 2 識別部によって外側第 2 目印部と内側第 2 目印部を区別し易い。よって、外側第 1 目印部と内側第 1 目印部を混同することなく、着用者の体型に適した位置に第 1 タブを止め、外側第 2 目印部と内側第 2 目印部を混同することなく、着用者の体型に適した位置に第 2 タブを止めることができる。

【0025】

好ましい一態様によれば、前記第 1 外端図柄の長さは、前記第 1 外端縁よりも長く、前記第 1 交差図柄の長さは、前記第 1 交差縁よりも長く、前記第 2 外端図柄の長さは、前記第 2 外端縁よりも長く、前記第 2 交差図柄の長さは、前記第 2 交差縁よりも長くてよい。

【0026】

第 1 目印部に第 1 タブを合わせた状態で、第 1 目印部の全体が第 1 タブによって覆われず、第 2 目印部に第 2 タブを合わせた状態で、第 2 目印部の全体が第 1 タブによって覆われない。よって、第 1 タブ及び第 2 タブを止着した状態で第 1 目印部及び第 2 目印部を視認し、タブの止着位置が適切か否かを判断することができる。必要に応じてタブの止着位置を直し、それぞれのタブを適切な位置に止めることができる。

【0027】

(2) 吸収性物品の実施形態

以下、図面を参照して、実施形態に係る吸収性物品としての使い捨ておむつについて説明する。使い捨ておむつは、大人用の使い捨ておむつであってもよいし、子供用の使い捨ておむつであってもよい。なお、以下の図面の記載において、同一又は類似の部分には、同一又は類似の符号を付している。ただし、図面は模式的なものであり、各寸法の比率等は現実のものとは異なることに留意すべきである。したがって、具体的な寸法等は、以下の説明を参酌して判断すべきである。また、図面相互間においても互いの寸法の関係や比率が異なる部分が含まれ得る。

【0028】

図 1 は、本実施形態に係る吸収性物品 10 を肌面側から見た平面図であり、図 2 は、実施形態に係る吸収コア 30 を肌面側から見た平面図である。図 3 は、図 1 に示す A - A 線に沿った断面図である。図 1 及び図 2 に示す平面図は、吸収性物品 10 を皺が形成されな

10

20

30

40

50

い状態まで伸張させた伸長状態を示している。本実施の形態の吸収性物品 10 は、展開型の大人用の吸収性物品であるが、これに限定されない。吸収性物品 10 は、子供用の吸収性物品であってもよい。

【0029】

吸収性物品 10 は、互いに直交する前後方向 L 及び幅方向 W を有する。前後方向 L は、身体前側と身体後側とに延びる方向によって規定される。言い換えると、前後方向 L は、展開された吸収性物品 10 において前後に延びる方向である。また、吸収性物品 10 は、前後方向 L と幅方向 W の両方に直交する厚さ方向 T を有する。厚さ方向 T は、着用者側に向かう肌面側 T1 と、着用者から離れる側の非肌面側 T2 と、に延びる。本明細書において、「肌面側」は、使用中に着用者の肌に面する側に相当する。「非肌面側」は、使用中

10

【0030】

吸収性物品 10 は、前胴回り域 S1 と、後胴回り域 S2 と、股下域 S3 と、を有する。前胴回り域 S1 は、使用時に着用者の身体前側に面する。後胴回り域 S2 は、使用時に着用者の身体後側に面する。股下域 S3 は、前胴回り域 S1 と後胴回り域 S2 との間に位置し、使用時に着用者の股下に配置される。股下域 S3 は、吸収コア 30 によって規定できる。具体的には、くびれ部 31 を有する吸収コア 30 においては、吸収コア 30 のくびれ部 31 が形成された領域が、股下域 S3 の前後方向 L の領域となる。くびれ部 31 を有しない吸収コア 30 においては、吸収コア 30 の前後方向の長さを三等分したうちの中央の領域が、股下域 S3 の前後方向 L の領域となる。本実施の形態では、吸収コア 30 のくびれ部 31 の前端縁が、股下域 S3 と前胴回り域 S1 の境界を規定し、吸収コアのくびれ部 31 の後端縁が、股下域 S3 と後胴回り域 S2 の境界を規定している。

20

【0031】

吸収性物品 10 は、脚回り開口部 65 を有する。脚回り開口部 65 は、吸収性物品の本体部（吸収性物品において後述する止着部材 90 を除いた部分）の外側縁において幅方向 W の内側に凹んだ部分である。なお、本実施の形態において外側縁は、幅方向の外側の端縁であり、内側縁は、幅方向の内側の端縁である。

【0032】

吸収性物品 10 は、少なくとも股下域 S3 に配置された吸収コア 30 を有する。吸収コア 30 は、股下域 S3 から前胴回り域 S1 及び後胴回り域 S2 へ延びていてよい。吸収コア 30 は、例えば粉碎パルプもしくは高吸収性ポリマー（SAP）、又はこれらの混合物を含む吸収材料の積層体であってよい。吸収性物品 10 は、吸収コア 30 と、コアラップ（図示せず）と、を含む吸収体を有してよい。コアラップは、吸収コア 30 の肌面側と非肌面側を覆うように配置され、例えば、ティッシュや不織布シートであってよい。

30

【0033】

吸収性物品 10 は、吸収コア 30 の肌面側 T1 に位置する肌面シート 41 と、吸収コア 30 の非肌面側 T2 に位置する非肌面シート 42 と、を有してよい。肌面シート 41 は、表面シート 41a と、サイドシート 41b と、を有してよい。表面シート 41a は、液透過性を有し、吸収コア 30 の少なくとも幅方向 W の中心を覆うように配置されてよい。サイドシート 41b は、疎水性を有する不織布からなり、吸収コア 30 の幅方向 W の中心よりも幅方向 W の外側において、幅方向 W における表面シート 41a の両側部を覆うように配置されてよい。非肌面シート 42 は、液不透過性を有し、吸収コア 30 よりも非肌面側に設けられてよい。非肌面シート 42 は、液不透過性のバックフィルム 42a と、バックフィルム 42a の非肌面側 T2 に配置されたバック不織布 42b と、を有してよい。

40

【0034】

吸収性物品 10 は、後胴回り域 S2 の幅方向 W の両外側部に設けられた止着部材 90 を有してよい。図 4 は、図 1 に示す止着部材 90 の拡大平面図である。止着部材 90 は、前胴回り域 S1 に設けられたターゲット領域 80 に止着可能に構成されている。止着部材 90 は、後胴回り域 S2 において本体部から幅方向の両外側にそれぞれ延出している。より詳細には、止着部材 90 は、肌面シート 41 の外側縁及び非肌面シート 42 の外側縁から

50

幅方向の外側に延出している。止着部材 90 は、幅方向の両側にそれぞれ配置されており、吸収性物品の幅方向の中心である物品幅中心 10CW に対する線対称であってもよい。

【0035】

止着部材 90 は、後胴回り域 S2 の肌面シート 41 及び非肌面シート 42 に接合されるベース部 95 と、ベース部 95 に固定された第 1 タブ 91 及び第 2 タブ 92 を有する。ベース部 95 は、幅方向に伸縮可能な伸縮部 95A を有していてもよい。伸縮部 95A を有することにより、第 1 タブ 91 と第 2 タブ 92 を異なる方向や位置に調整して止着し易くなる。

【0036】

第 1 タブ 91 と第 2 タブ 92 は、前後方向 L に並んで配置されている。使い捨ておむつの展開状態において、第 2 タブ 92 は、第 1 タブ 91 よりも前側に配置されている。図 6 に示すように、使い捨ておむつの装着状態では、第 2 タブ 92 は、第 1 タブ 91 よりも後側に配置される。なお、第 1 タブ 91 と第 2 タブ 92 は、ベース部 95 と一体化していてもよい。また、第 1 タブ 91 と第 2 タブ 92 は、部分的に連なってもよい。第 1 タブ 91 は、ターゲット領域 80 に止着する第 1 係合部 913 を有する。第 2 タブ 92 は、ターゲット領域 80 に止着する第 2 係合部 923 を有する。

【0037】

第 1 タブ 91 は、吸収性物品の展開状態（図 1 及び図 4 参照）における第 1 タブ 91 の幅方向の外端縁に位置する第 1 外端縁 911 と、第 1 タブ 91 の第 1 外端縁 911 に交差し、かつ幅方向に延びる第 1 交差縁 912 と、を有する。第 1 交差縁 912 は、第 1 外端縁 911 の前端縁 911F から幅方向の内側に延びる前第 1 交差縁 F912 と、第 1 外端縁 911 の後端縁 911R から幅方向の内側に延びる後第 1 交差縁 R912 と、を有する。

【0038】

第 2 タブ 92 は、吸収性物品の展開状態における第 2 タブ 92 の幅方向の外端縁に位置する第 2 外端縁 921 と、第 2 タブ 92 の第 2 外端縁 921 に交差し、かつ幅方向に延びる第 2 交差縁 922 と、を有する。第 2 交差縁 922 は、第 2 外端縁 921 の前端縁 921F から幅方向の内側に延びる前第 2 交差縁 F922 と、第 2 外端縁 921 の後端縁 921R から幅方向の内側に延びる後第 2 交差縁 R922 と、を有する。第 1 交差縁 912 及び第 2 交差縁 922 は、幅方向に延びていればよく、幅方向に平行に延びる構成のみならず、幅方向に対して傾斜する構成も含む。

【0039】

図 2 に示すように、ターゲット領域 80 は、装着時に、止着部材の第 1 係合部 913 及び第 2 係合部 923 が止着される領域である。ターゲット領域 80 は、フック部材としての係合部が止着するループ部材を有する領域であってもよいし、非肌面シート 42 の全面に係合部が係合可能な構成にあっては、前胴回り域の全体に亘って設けられていてもよい。本実施の形態の係合部は、バック不織布 42b に止着可能に構成されており、ターゲット領域 80 は、バック不織布 42b が配置された領域となる。しかし、止着部材 90 を適切な位置に止めるためには、一定の範囲に止着部材 90 を止めることが好ましく、本実施の形態のターゲット領域 80 には、止着部材 90 を止める位置の目印となる目印部が設けられている。目印部は、吸収性物品の非肌面側から視認可能に構成されている。目印部は、バックフィルム 42a に印刷されていてもよいし、バック不織布 42b に印刷されていてもよい。

【0040】

図 5 は、図 2 に示す目印部の拡大平面図である。目印部は、第 1 目印部 51 と、第 2 目印部 52 と、を有する。第 2 目印部 52 は、第 1 目印部 51 よりも後側に位置する。第 1 目印部 51 と第 2 目印部 52 は、前後方向 L に並んで配置されている。第 1 目印部 51 と第 2 目印部 52 は、一部重なっていてもよいし、離間していてもよい。第 1 目印部 51 は、第 1 タブ 91 の止着位置の目印となる。第 1 目印部 51 は、第 1 外端縁 911 に相似する第 1 外端図柄 511 と、第 1 交差縁 912 に相似する第 1 交差図柄 512 と、を有する。第 1 交差図柄 512 は、前第 1 交差縁 F912 に相似する前第 1 交差図柄 F512 と、

10

20

30

40

50

後第１交差縁Ｒ９１２に相似する後第１交差図柄Ｒ５１２と、のうち少なくとも一方を有してよい。前第１交差図柄Ｆ５１２は、後第１交差図柄Ｒ５１２よりも後側に位置している。第１外端図柄５１１と第１交差図柄５１２は、連なっているともよいし、離間してもよい。

【００４１】

第２目印部５２は、第２タブ９２の止着位置の目印となる。第２目印部５２は、第２外端縁９２１に相似する第２外端図柄５２１と、第２交差縁９２２に相似する第２交差図柄５２２と、を有する。第２交差図柄５２２は、前第２交差縁Ｆ９２２に相似する前第２交差図柄Ｆ５２２と、後第２交差縁Ｒ９２２に相似する後第２交差図柄Ｒ５２２と、のうち少なくとも一方を有してよい。前第２交差図柄Ｆ５２２は、後第２交差図柄Ｒ５２２よりも後側に位置している。第２外端図柄５２１と第２交差図柄５２２は、連なっているともよいし、離間してもよい。

10

【００４２】

第１目印部５１は、第１外端図柄５１１と、第１交差図柄５１２と、を少なくとも有していればよく、第１タブ９１の外形に相似しない非相似部分を有しているともよい。非相似部分は、例えば、タブの外形と角度や形状が異なる部分である。例えば、第１目印部５１は、第１外端図柄５１１と第１交差図柄５１２との間に非相似部分を有しているともよいし、第１外端図柄５１１に非相似部分が連なっているともよいし、第１交差図柄５１２に非相似部分が連なっているともよい。同様に、第２目印部５２は、第２外端図柄５２１と、第２交差図柄５２２と、を少なくとも有していればよく、第２タブ９２の外形に相似しない非相似部分を有しているともよい。例えば、第２目印部５２は、第２外端図柄５２１と第２交差図柄５２２との間に非相似部分を有しているともよいし、第２外端図柄５２１に非相似部分が連なっているともよいし、第２交差図柄５２２に非相似部分が連なっているともよい。

20

【００４３】

第１目印部５１は、第１タブ９１の止着位置を段階的に示すように幅方向Ｗに間隔を空けて複数設けられてよい。第１目印部５１は、外側第１目印部５１Ｘと、外側第１目印部５１Ｘよりも幅方向Ｗの内側に配置された内側第１目印部５１Ｙと、を有してよい。第１目印部５１は、外側第１目印部５１Ｘと内側第１目印部５１Ｙの間に配置された中間第１目印部５１Ｚを有してもよい。外側第１目印部５１Ｘ、内側第１目印部５１Ｙ及び中間第１目印部５１Ｚは、幅方向Ｗに離間しているともよいし、一部が連なっているともよい。

30

【００４４】

第２目印部５２は、第２タブ９２の止着位置を段階的に示すように幅方向Ｗに間隔を空けて複数設けられてよい。第２目印部５２は、外側第２目印部５２Ｘと、外側第２目印部５２Ｘよりも幅方向Ｗの内側に配置された内側第２目印部５２Ｙと、を有してよい。第２目印部５２は、外側第２目印部５２Ｘと内側第２目印部５２Ｙの間に配置された中間第２目印部５２Ｚを有してもよい。外側第２目印部５２Ｘ、内側第２目印部５２Ｙ及び中間第２目印部５２Ｚは、幅方向Ｗに離間しているともよいし、一部が連なっているともよい。

【００４５】

次いで、このように構成された吸収性物品１０の止着部材９０の止着態様について説明する。図６は、止着部材９０がターゲット領域８０に止着した状態を示した図である。具体的には、第１タブ９１を外側第１目印部５１Ｘに合わせて止着し、第２タブ９２を外側第２目印部５２Ｘに合わせて止着している。吸収性物品１０を着用者に装着する際は、後胴回り域Ｓ２を着用者の背側に当て、かつ前胴回り域Ｓ１を着用者の腹側に当てた状態で、止着部材９０を前胴回り域Ｓ１側に引き寄せ、左右それぞれの第１タブ９１と、左右それぞれの第２タブ９２と、をターゲット領域８０に止着する。すなわち、第１タブ９１と第２タブ９２を有する吸収性物品１０は、合計４つのタブをターゲット領域８０に止着する操作を行う。このとき、装着者によっては、上下及び左右に複数のタブがあるため、適切な位置に止着部材９０を配置できないことがあった。また、装着者によっては、第１タブ９１を合わせる位置と第２タブ９２を合わせる位置とが混同し、適切な位置に止着部材を配置できないことがあった。

40

50

【 0 0 4 6 】

本実施の形態の吸収性物品 10 は、目印部によって装着者がそれぞれのタブが止着される位置を把握できるように構成されている。具体的には、第 1 目印部 5 1 が第 1 タブ 9 1 の交差する 2 辺（第 1 外端縁及び第 1 交差縁）に相似する図柄であり、第 2 目印部 5 2 が第 2 タブ 9 2 の交差する 2 辺（第 2 外端縁及び第 2 交差縁）に相似する図柄である。装着者は、第 1 目印部 5 1 の 2 辺と第 1 タブの 2 辺を合わせることができ、第 1 タブ 9 1 を第 1 目印部 5 1 に合わせる部位を適切に把握できる。同様に、装着者は、第 2 目印部 5 2 の 2 辺と第 2 タブの 2 辺を合わせることができ、第 2 タブ 9 2 を第 2 目印部 5 2 に合わせる部位を適切に把握できる。また、第 1 目印部 5 1 と第 2 目印部 5 2 は、前後方向 L に並んで配置されているため、前後方向 L に並んだ第 1 タブ 9 1 と第 2 タブ 9 2 のそれぞれを止める位置を混同し難い。よって、それぞれのタブを適切な位置に止めることができる。

10

【 0 0 4 7 】

第 1 交差図柄 5 1 2 及び第 2 交差図柄 5 2 2 は、幅方向 W の内側に向かうにつれて前後方向 L において互いに近づくように延びてよい。すなわち、第 1 交差図柄 5 1 2 は、幅方向 W の内側に向かって後側に延び、第 2 交差図柄 5 2 2 は、幅方向 W の内側に向かって前側に延びてよい。幅方向 W の内側に向かって互いに近づくように第 1 タブ 9 1 と第 2 タブ 9 2 を配置できる。第 1 タブ 9 1 の角度及び第 2 タブ 9 2 の角度もガイドでき、着用者の腹部の幅方向 W の中心に対して締め付ける力が強くなるように止着部材 9 0 を止着できる。

【 0 0 4 8 】

また、内側第 1 目印部 5 1 Y と内側第 2 目印部 5 2 Y との前後方向 L の距離は、外側第 1 目印部 5 1 X と外側第 2 目印部 5 2 X との前後方向 L の距離よりも短くなるように構成されてよい。タブの止着位置を段階的に選択し、物品幅中心 10 C W により近い位置に止着する際に、第 1 タブ 9 1 と第 2 タブ 9 2 が近づくように配置でき、着用者の腹部の幅方向の中心に対して締め付ける力が強くなるように止着部材 9 0 を止着できる。

20

【 0 0 4 9 】

第 1 目印部 5 1 と第 2 目印部 5 2 は、前後方向 L に離間してよい。当該構成によれば、前後方向 L に並んで配置された第 1 タブ 9 1 と第 2 タブ 9 2 のそれぞれを止める位置をより区別し易くなり、それぞれのタブを適切な位置に止めることができる。なお、第 1 目印部 5 1 と第 2 目印部 5 2 が離間している部分があればよく、第 1 目印部 5 1 と第 2 目印部 5 2 の全体に亘って離間してもよいし、第 1 目印部 5 1 と第 2 目印部 5 2 の一部が離間してもよい。

30

【 0 0 5 0 】

第 1 目印部 5 1 と第 2 目印部 5 2 は、一部重なっており、装着順序が先のタブを示す目印部が欠けていてよい。すなわち、正しい止着順序で止着された状態で、装着者が見えるタブの状態を目印部によって示してよい。本実施の形態では、第 1 目印部 5 1 と第 2 目印部 5 2 が一部重なっており、第 2 目印部 5 2 は、第 2 タブ 9 2 の一部が欠けた形状であり、第 1 目印部 5 1 は、第 1 タブ 9 1 が欠けていない形状であって、第 2 目印部 5 2 に重なるように示されている。これによれば、装着者は、タブの正しい止着順序を把握でき、第 1 タブ 9 1 を第 2 タブ 9 2 に重ねるように止着する、すなわち、第 2 タブ 9 2 を止着し、次いで、第 1 タブ 9 1 を止着することを把握できる。

40

【 0 0 5 1 】

第 1 目印部 5 1 は、第 1 係合部 9 1 3 に相似する第 1 係合図柄 5 1 3 を有し、第 2 目印部 5 2 は、第 2 係合部 9 2 3 に相似する第 2 係合図柄 5 2 3 を有してよい。第 1 係合部 9 1 3 の位置を第 1 係合図柄 5 1 3 に直接合わせ、第 2 係合部 9 2 3 の位置を第 2 係合図柄 5 2 3 に直接合わせることができ、よって、タブの係合部をより適切な位置に止めることができる。第 1 係合図柄 5 1 3 と第 2 係合図柄 5 2 3 は、重なっていないことが好ましい。

【 0 0 5 2 】

第 1 目印部 5 1 は、第 1 タブ 9 1 の外形よりも大きくてよく、第 2 目印部 5 2 は、第 1 タブ 9 1 の外形よりも大きくてよい。具体的には、第 1 外端図柄 5 1 1 の長さは、第 1 外

50

端縁 9 1 1 よりも長くてよい。第 1 交差図柄 5 1 2 の長さは、第 1 交差縁 9 1 2 よりも長くてよい。第 2 外端図柄 5 2 1 の長さは、第 2 外端縁 9 2 1 よりも長くてよい。第 2 交差図柄 5 2 2 の長さは、第 2 交差縁 9 2 2 よりも長くてよい。図 6 に示すように、第 1 目印部 5 1 に第 1 タブ 9 1 を合わせた状態で、第 1 目印部 5 1 の全体が第 1 タブ 9 1 によって覆われず、第 2 目印部 5 2 に第 2 タブ 9 2 を合わせた状態で、第 2 目印部 5 2 の全体が第 2 タブ 9 2 によって覆われない。よって、第 1 タブ 9 1 及び第 2 タブ 9 2 を止着した状態で第 1 目印部 5 1 及び第 2 目印部を視認し、タブの止着位置が適切か否かを判断することができる。必要に応じてタブの止着位置を直し、それぞれのタブを適切な位置に止めることができる。

【 0 0 5 3 】

より好適には、第 1 目印部 5 1 は、第 1 タブ 9 1 の外形よりも大きい部分と、第 1 タブ 9 1 の外形よりも小さい部分と、を有してよい。すなわち、第 1 目印部 5 1 は、第 1 タブ 9 1 の外縁をまたがる形状であってよい。同様に、第 2 目印部 5 2 は、第 2 タブ 9 2 の外形よりも大きい部分と、第 2 タブ 9 2 の外形よりも小さい部分と、を有してよい。すなわち、第 2 目印部 5 2 は、第 2 タブ 9 2 の外縁をまたがる形状であってよい。第 1 目印部 5 1 に重なるように第 1 タブ 9 1 を止着できる。加えて、止着した後にも第 1 目印部 5 1 が見えるため、第 1 タブ 9 1 の止着位置が適切か否かを判断することができる。同様に、第 2 目印部 5 2 に重なるように第 2 タブ 9 2 を止着できる。加えて、止着した後にも第 2 目印部 5 2 が見えるため、第 2 タブ 9 2 の止着位置が適切か否かを判断することができる。

【 0 0 5 4 】

目印部が段階的にタブの止着位置を示す形態にあっては、各目印部の見た目を異ならせてもよい。具体的には、外側第 1 目印部 5 1 X は、内側第 1 目印部 5 1 Y に対する色差 E が 3 . 0 以上の第 1 識別部 5 1 5 を有してよい。第 1 識別部 5 1 5 は、中間第 1 目印部 5 1 Z に対する色差 E が 3 . 0 以上であってもよい。本実施の形態では、外側第 1 目印部 5 1 X の第 1 係合図柄 5 1 3、内側第 1 目印部 5 1 Y の第 1 係合図柄 5 1 3、及び中間第 1 目印部 5 1 Z の第 1 係合図柄 5 1 3 のそれぞれが、第 1 識別部 5 1 5 として機能し、互いの色差が 3 . 0 以上異なる。外側第 2 目印部 5 2 X は、内側第 2 目印部 5 2 Y に対する色差 E が 3 . 0 以上の第 2 識別部 5 2 5 を有してよい。第 2 識別部 5 2 5 は、中間第 2 目印部 5 2 Z に対する色差 E が 3 . 0 以上であってもよい。本実施の形態では、外側第 2 目印部 5 2 X の第 2 係合図柄 5 2 3、内側第 2 目印部 5 2 Y の第 2 係合図柄 5 2 3、及び中間第 2 目印部 5 2 Z の第 2 係合図柄 5 2 3 のそれぞれが、第 2 識別部 5 2 5 として機能し、互いの色差が 3 . 0 以上異なる。

【 0 0 5 5 】

出願人が種々検討を重ねた結果、使用者は、一般的に色差 E が 3 . 0 以上であると、2 つの領域を別の領域として認識し易いことがわかった。装着者は、着用者の体型等に応じて、外側第 1 目印部 5 1 X と内側第 1 目印部 5 1 Y を選択するとともに、外側第 2 目印部 5 2 X と内側第 2 目印部 5 2 Y を選択できる。このとき、装着者は、第 1 識別部 5 1 5 によって外側第 1 目印部 5 1 X と内側第 1 目印部 5 1 Y を区別し易く、第 2 識別部 5 2 5 によって外側第 2 目印部 5 2 X と内側第 2 目印部 5 2 Y を区別し易い。よって、外側第 1 目印部 5 1 X と内側第 1 目印部 5 1 Y を混同することなく、着用者の体型に適した位置に第 1 タブ 9 1 を止め、外側第 2 目印部 5 2 X と内側第 2 目印部 5 2 Y を混同することなく、着用者の体型に適した位置に第 2 タブ 9 2 を止めることができる。

【 0 0 5 6 】

なお、段階的にタブの止着位置を示す目印部の見た目を異ならせる他の形態としては、各目印部の柄を異ならせてもよいし、線の太さや形状を異ならせてもよい。また、外側第 1 目印部 5 1 X の第 1 識別部と外側第 2 目印部 5 2 X の第 2 識別部は、同じ色又は絵柄であってもよいし、内側第 1 目印部 5 1 Y の第 1 識別部と外側第 2 目印部 5 2 X の第 2 識別部は、同じ色又は絵柄であってもよい。この構成によれば、第 1 タブと第 2 タブを異なる段階（例えば、外側第 1 目印部 5 1 X と内側第 2 目印部 5 2 Y）に止着する操作間違いをし難く、第 1 タブと第 2 タブを同じ段階（例えば、外側第 1 目印部 5 1 X と外側第 2 目印

10

20

30

40

50

部 5 2 X) に止着し易い。

【 0 0 5 7 】

第 1 目印部 5 1 は、物品幅中心 1 0 C W に対する両側にそれぞれ配置され、第 2 目印部 5 2 は、物品幅中心 1 0 C W に対する両側にそれぞれ配置されている。装着者は、物品幅中心 1 0 C W の両側に左右のタブをそれぞれ止着できる。第 1 目印部 5 1 及び第 2 目印部 5 2 は、物品幅中心 1 0 C W に対して線対称であってよい。左右のタブを対称に止着できる。第 1 目印部 5 1 と第 2 目印部 5 2 の間には、前後方向に延びる中心目印部 5 5 が設けられていてもよい。中心目印部 5 5 を身体を中心に合わせることにより、より適した位置に吸収性物品 1 0 を装着できる。

【 0 0 5 8 】

第 1 目印部 5 1 及び第 2 目印部 5 2 の少なくとも一方は、吸収コアと 3 0 重なる領域に配置されてよい。第 1 タブ 9 1 及び第 2 タブ 9 2 の少なくとも一方を止着することにより、吸収コア 3 0 を押さえることができる。吸収コア 3 0 の密着性を高め、漏れを抑制できる。

【 0 0 5 9 】

第 1 目印部 5 1 及び第 2 目印部 5 2 は、吸収コア 3 0 の前端縁 3 0 F よりも後側に配置されていてもよい。または、第 1 目印部 5 1 及び第 2 目印部 5 2 の少なくとも一方は、吸収コア 3 0 の前端縁 3 0 F を跨がっていてもよい。当該構成によれば、第 1 タブ 9 1 及び第 2 タブ 9 2 の少なくとも一方を止着することにより、吸収コア 3 0 の前端縁を押さえることができる。吸収コア 3 0 の密着性を高めるとともに、吸収コア 3 0 の前端縁 3 0 F が身体から浮き上がることによる漏れを抑制できる。

【 0 0 6 0 】

第 1 交差図柄 5 1 2 は、吸収コア 3 0 の前端縁 3 0 F に沿って延びてよい。本実施の形態の吸収コア 3 0 の前端縁 3 0 F は、幅方向 W の内側に向かって後側に延びている。すなわち、吸収コア 3 0 の前端縁 3 0 F は、物品幅中心 1 0 C W に向かって後側に湾曲している。第 1 交差図柄 5 1 2 は、幅方向 W の内側に向かって後側に延びてよい。第 1 目印部 5 1 の第 1 交差図柄 5 1 2 に沿って第 1 タブ 9 1 が止着されることにより、吸収コア 3 0 の前端縁 3 0 F の形状に沿うように吸収コア 3 0 を押さえることができる。吸収コア 3 0 の前端縁 3 0 F が身体から浮き上がることによる漏れを抑制できる。

【 0 0 6 1 】

上述の実施形態を用いて本発明について詳細に説明したが、当業者にとっては、本発明が本明細書中に説明した実施形態に限定されるものではないということは明らかである。本発明は、特許請求の範囲の記載により定まる本発明の趣旨及び範囲を逸脱することなく修正及び変更態様として実施することができる。したがって、本明細書の記載は、例示説明を目的とするものであり、本発明に対して何ら制限的な意味を有するものではない。

【産業上の利用可能性】

【 0 0 6 2 】

本発明によれば、第 1 タブと第 2 タブを有する吸収性物品において、第 1 タブと第 2 タブをそれぞれ適切な位置に装着できる吸収性物品を提供できる。

【符号の説明】

【 0 0 6 3 】

- 1 0 : 吸収性物品
- 1 0 C W : 物品幅中心
- 3 0 : 吸収コア
- 5 1 : 第 1 目印部
- 5 1 X : 外側第 1 目印部
- 5 1 Y : 内側第 1 目印部
- 5 1 1 : 第 1 外端図柄
- 5 1 2 : 第 1 交差図柄
- 5 1 3 : 第 1 係合図柄

10

20

30

40

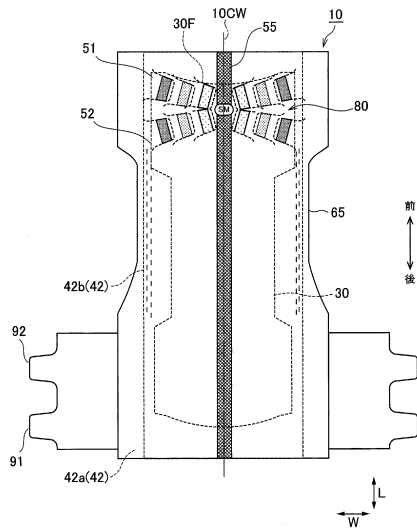
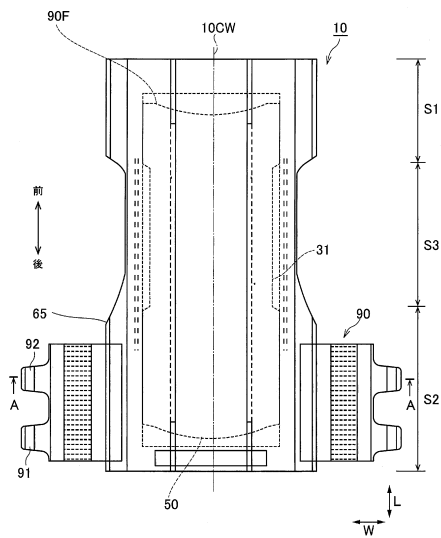
50

- 5 1 5 : 第 1 識別部
- 5 2 : 第 2 目印部
- 5 2 X : 外側第 2 目印部
- 5 2 Y : 内側第 2 目印部
- 5 2 1 : 第 2 外端図柄
- 5 2 2 : 第 2 交差図柄
- 5 2 3 : 第 2 係合図柄
- 5 2 5 : 第 2 識別部
- 8 0 : ターゲット領域
- 9 0 : 止着部材
- 9 1 : 第 1 タブ
- 9 1 1 : 第 1 外端縁
- 9 1 2 : 第 1 交差縁
- 9 1 3 : 第 1 係合部
- 9 2 : 第 2 タブ
- 9 2 1 : 第 2 外端縁
- 9 2 2 : 第 2 交差縁
- 9 2 3 : 第 2 係合部
- S 1 : 前胴回り域
- S 2 : 後胴回り域
- S 3 : 股下域
- L : 前後方向
- T : 厚さ方向
- T 1 : 肌面側
- T 2 : 非肌面側
- W : 幅方向

【 図 面 】

【 図 1 】

【 図 2 】



10

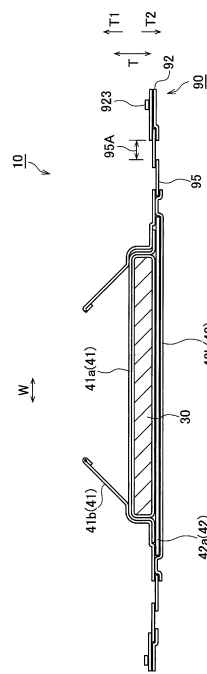
20

30

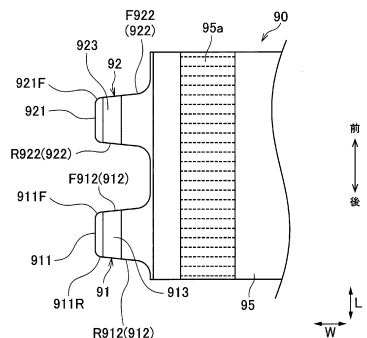
40

50

【図 3】



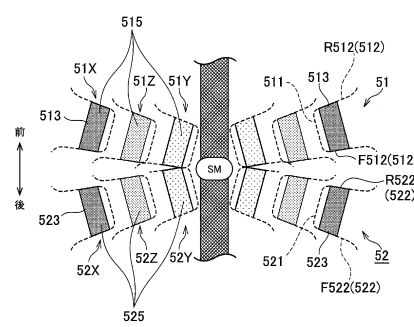
【図 4】



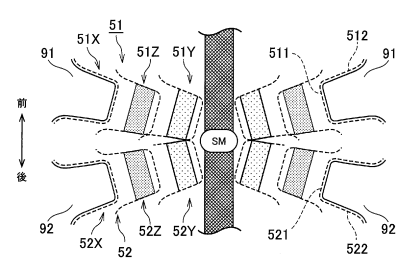
10

20

【図 5】



【図 6】



30

40

50

フロントページの続き

7 ユニ・チャーム株式会社テクニカルセンター内

(72)発明者 島津 健

香川県観音寺市豊浜町和田浜 1 5 3 1 - 7 ユニ・チャーム株式会社テクニカルセンター内

審査官 金丸 治之

(56)参考文献 特開 2 0 1 2 - 0 5 0 5 7 5 (J P , A)

特開 2 0 0 8 - 1 6 8 1 1 5 (J P , A)

特開 2 0 0 3 - 1 1 1 7 9 8 (J P , A)

特開 2 0 1 6 - 0 3 2 5 8 9 (J P , A)

米国特許第 0 4 6 6 2 8 7 5 (U S , A)

国際公開第 9 9 / 0 2 2 6 8 8 (W O , A 1)

(58)調査した分野 (Int.Cl. , D B 名)

A 6 1 F 1 3 / 5 6

A 6 1 F 1 3 / 4 9 3